

口氏世々社司たり、

○末社 日神社 △稻荷社 以上の二社、本社の左にあり、
 △月神社 △大田社 △大王社 以上の三社、本社の右
 はあり、

韓國宇豆峯神社方一里三町反
 上井村、宇豆峯の麓にあり、社
家傳に春日大明神、彦火々出見尊若宮八幡を祭るといふ。神社
 三坐の外、同殿に佛像三軀あり、是は近頃曾於例祭正月元日、
 舊止上神社別當僧源亮房覺道之所安とぞ。
 二月初午日、九月九日、十一月初午日、延喜式、大隅國、贈喰郡、韓
 國宇豆峯神社是なり、宇佐記辛國に作る、神社撰集云始め宇
 豆峯の嶺はあり、謁祭に便りならざるを以て、今の地に遷し
 祭とか、宇豆峯は、今の社頭より申方、五町許りにある野岡な
 り、當社に永正元年以來の棟札あり、此所に遷されしは、永正
 以前なるべし、當社は大隅國五社の一なり、其四社は、當邑鹿

穴持神社、福喜山邑宮浦神社、屋久島益救神社、延喜式所載大隅國五坐なり、神宇佐記曰、欽明天皇
 三十二年、二月癸卯、豊前國、宇佐郡、菱形池上小倉山邊有神、託
 三歲兒告異人大神比疑曰、辛國城八流之幡降、辛國曾於郡在
 我是日本人王十六代譽田天皇廣幡八幡麿也、是應神天
 皇靈を見はし給ふ也、こゝに八流の幡を降されしなり、按に
 韓國亦虛國獄此獄は、蹄に在り、に同しく、脅之空國の義に似たりと
 いへども然らず此地いにしへ韓國城と號し、韓神に由あり
 と見ゆ、所祀五十猛命、韓神曾富理神の三坐なるべし、この神、
 筑紫に在て、或は種樹を掌り、或は韓地に渡楫し、或は韓鄉防
 禦使となる、興名艸曰、韓神次曾富理神云々、韓神掌踵素盞鳴
 尊之武以豫爲韓鄉防禦之備也、曾富理神、曾富理添副之謂、夫
 韓鄉以滄海分、三域其地隣接于西州、以生鎮邊焉、此神與韓神
 同掌爲國家守邊要也、式所謂韓神園神是也云々、これを以て